

梅小路公園の 再整備に当たって

～市民の皆様へ改めてお知らせします。～

京都市では、民間事業者から提案のあった梅小路公園及び隣接地への水族館計画と鉄道博物館計画を契機として梅小路公園の再整備に向けた準備を進めています。

昨年12月には、水族館と鉄道博物館の開発構想に関するまちづくり条例に基づく手続きが終了し、オリックス不動産株式会社（以下「事業者」といいます。）から水族館の展示内容が公表されました。

本年1月30日には、事業者により地元4学区等を対象に展示内容に関する説明会が開催され、3月2日から、中高層条例に基づく手続きが行われています。

京都市では、現在、梅小路公園の再整備に当たっての施設の再配置計画、動線計画や交通アクセス計画などの作成を行っているところであり、計画内容が定まり次第、パンフレットやホームページでお知らせしていくとともに、説明会等を開催していく予定です。

また、水族館計画については、事業者と設置に向けた協議を進める一方、事業者が情報提供を積極的に行い、説明会等を通じて市民の皆様への説明責任をしっかりと果たすよう、今後とも指導していく所存です。

平成20年7月の水族館の提案受理以降、梅小路公園の再整備や水族館計画、鉄道博物館計画については、市民の皆様からさまざまな御意見をいただきました。賛成、反対、不安や懸念に関する御意見のほか、いまだに誤解に基づく御意見や再整備についてあまり御存知ない方も見受けられます。

そこで、京都市としては、一人でも多くの方に梅小路公園の再整備について知っていただくため、これまで市にて作成した梅小路公園の再整備に関する資料と事業者が作成した水族館の展示内容等に関する資料をまとめて、改めて配布させていただくことにしました。

御一読いただき、梅小路公園の再整備に関する御理解を深めていただければ幸いです。

目 次

1	梅小路公園再整備の方向性（案）	1
	作成：京都市 公表：平成21年6月	
2	梅小路公園再整備ゾーニング図（案）	8
	作成：京都市 公表：平成22年1月	
3	イメージ図（広場・駐車場ゾーン，森と芝生広場ゾーン）	9
	作成：京都市 公表：平成22年1月	
以下はオリックス不動産㈱作成の資料を参考に添付しております。		
①	水族館の展示内容「水族館・水紀行」	10
	公表：平成21年12月	
②	水族館の省CO2への取り組みについて	18
	公表：平成21年12月	
③	水族館のフロア構成（案）	19
	公表：平成22年1月	
④	水族館の計画概要図及び立面図	20
	公表：平成22年3月	
⑤	水族館のパース	22
	公表：平成22年3月	

※ 昨年12月に民間事業者から提出されたまちづくり条例に基づく「見解書」（作成：オリックス不動産㈱・西日本旅客鉄道㈱）は添付しておりません。

見解書は都市計画課において閲覧することができます。

※ まちづくり条例に基づく「見解書」とは別に、昨年12月に京都市がまとめた「梅小路公園の再整備に関する京都市の考え方について」も紙面の関係上、添付しておりません。

京都市の考え方は緑政課ホームページで御覧いただけます。

（ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/soshiki/10-4-1-0-0.html>）

また、緑政課，都市計画課においても配布しています。

梅小路公園

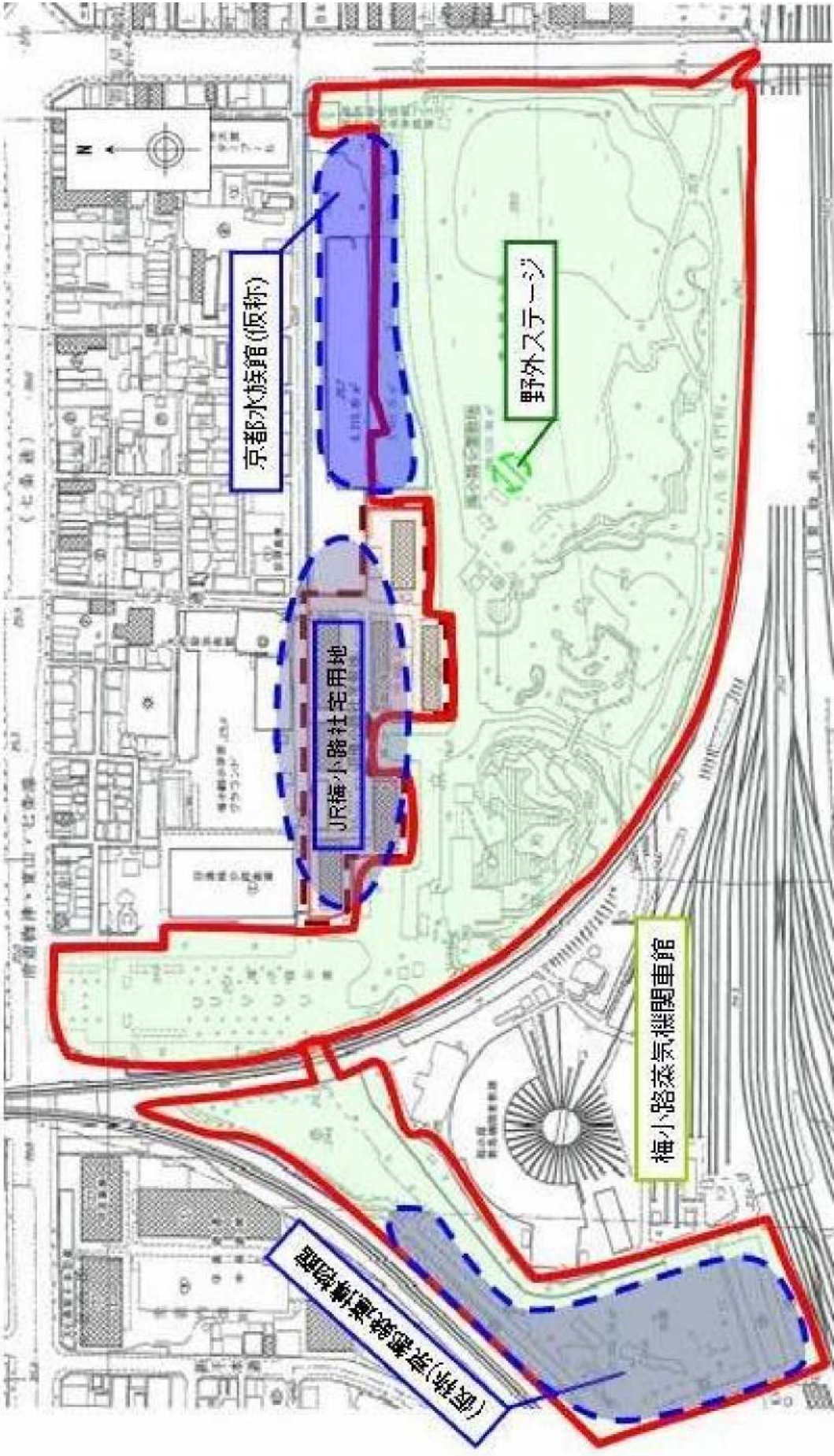
再整備の方向性（案）

～地域活性化の核として公園の魅力が向上～

京都市では、この度、民間事業者から提案を受けた「京都水族館（仮称）」、「（仮称）京都鉄道博物館」や、本市が屋外における文化芸術活動の拠点として整備する「野外ステージ」によって、新たな魅力が加わる梅小路公園が、より一層、市民の皆様や観光客から愛されるとともに、地域活性化の核となることを目指し、「梅小路公園再整備の方向性（案）」をまとめました。

これは、梅小路公園の再整備についての本市の基本的な考え方を3つの「基本理念」と6つの「基本方針」に整理したもので、本市では、今後、再整備の方向性（案）をより充実させていくとともに、市民の皆様からの御意見を踏まえ、諸課題の解決に取り組みながら再整備に向けた具体化を図っていきます。

梅小路公園施設予定図



1 はじめに

梅小路公園は、京都市の中心市街地に位置し、岡崎公園と並ぶ総合公園として、都市部における貴重な緑と、オープンスペースを担保するとともに、憩いの場の創出、各種イベントや蒸気機関車館での体験学習等、総合的なレクリエーションを通じて、京都市民のみならず市外の方々からも広く親しまれ、本市における中心的な公園としての役割を担っています。

民間事業者から提案を受けた京都水族館（仮称）整備構想と（仮称）京都鉄道博物館整備構想は、ともに都市公園法上の「公園施設（教養施設）」に位置付けられるものであり、当公園の機能拡大はもとより、周辺地域活性化に寄与することが大いに期待されるところです。

そこで、これらの施設の整備によって新たな魅力が加わる梅小路公園が、より一層、市民、観光客から愛されるとともに、地域活性化の核となることを目指し、その再整備の方向性を明らかにするものです。

京都水族館（仮称）整備構想の概要	
設置場所	梅小路公園に隣接する京神倉庫跡地及び園内のメイン園路北側区域の一部（現在、イベント会場やバックヤードとして利用しているスペースを活用）
構 造	鉄筋コンクリート造、地上3階建て
面 積	敷地面積：約 10,000 m ² 、延床面積：約 14,000 m ² （梅小路公園の面積：117,133 m ² ）
特 徴	国内最大級の内陸型水族館 環境共生型水族館 地域に愛される水族館
年間入場者数	約 200 万人（オリックス不動産(株)による開業初年度の需要予測）
開業予定	平成 23 年度
設置・運営主体	オリックス不動産株式会社

（仮称）京都鉄道博物館整備構想の概要	
設置場所	梅小路蒸気機関車館西側隣接地
構 造	未定
面 積	未定
特 徴	鉄道を中心とした博物館 梅小路蒸気機関車館との総合的な演出を図る。
年間入場者数	未定（参考 平成 19 年度入場者数：梅小路蒸気機関車館 22.5 万人、交通科学博物館（大阪市）30.5 万人）
開業予定	平成 26 年度～27 年度頃
設置・運営主体	西日本旅客鉄道株式会社

2 再整備の基本的な考え方について

(1) 基本理念

京都市は京都議定書誕生の地であり、環境モデル都市です。再整備に際しては、環境負荷の一層の低減を図るなど、地球温暖化防止に積極的に取り組むとともに、「歩くまち・京都」を推進することを視点とします。

また、梅小路公園は、平安建都1200年を記念し、「都心の緑の創造」、「歴史の継承と未来への飛躍」、「緑の文化の発信」をテーマに整備された公園です。このテーマを大切に次世代へ継承するとともに、新しいエデュテインメント施設ともなる文化・観光施設が提案されたことを受け、公園・周辺地域・京都市全域の活性化へつなげていくことが重要です。

これらを念頭に、次の3つの理念の下に梅小路公園の再整備を進めます。

「地域活性化の核」となる賑わい・交流の場の創出

「水族館」、「鉄道博物館」の導入により見込まれる、広域からの観光客を周辺地域へ誘引し、地域全体を活性化する核となる公園を目指します。更に、京都市を代表する総合公園としてだけでなく、地域の身近な公園として愛され、住民の参加や、様々な市民活動によって賑わう交流の場を創出することを目指します。

多様な「いのちの輝き・つながり」を学ぶ都心のオアシスの充実

JR梅小路駅貨物跡地に創出した「いのちの森」に象徴される都心の貴重な「緑」を守り育て、ヒートアイランド現象の抑制に努めます。更に、森・都市・海のストーリー性を持たせ、昆虫や草花のすみかとなる「いのちの森」、市民の活動の場となる「芝生広場」、海の生物の生態を見せる「水族館」の設置によって、多様な生物の「いのちの輝き・つながり」を感じ、学べる場としての機能を充実することを目指します。

京都力を代表する「文化」を継承・発展する拠点の創出

下京区制130周年記念として整備する「野外ステージ」は、草の根や若者などの文化芸術活動の振興に資するものです。また、公園のシンボルである「朱雀の庭」は、京都の庭園文化（緑の文化）を代表するものであり、庭園を使った芸術活動の促進により、その精神を後世に大切に継承します。更に、京都に根付いた梅小路蒸気機関車館に隣接する「鉄道博物館」の設置により、近代文明を表象する鉄道文化を具現化します。これらの施設により、総合公園としての文化的機能を拡充させ、更に東本願寺、西本願寺、東寺など周辺地域の歴史文化資源との連携を強化することで、京都が持つ最大の特性である「文化」を継承・発展する拠点の創出を目指します。

野外ステージの整備概要	
設置場所	梅小路公園芝生広場西側中央広場
施設規模	308㎡（ステージ部分22m×14m）
開設予定	平成22年3月
事業費	36,000千円
設置・運営主体	京都市

（２）基本方針

① アクセスの確保

ア 歩くまち京都の推進

- ・ 増加が予想される公園利用者の交通手段については、歩いて楽しいまちづくり（「歩くまち・京都」）を実現するため、第一に徒歩や自転車の利用、第二に京都駅や大宮駅からの市バスの利用を促進します。
- ・ 地域生活の安心・安全の確保に配慮し、自家用車による来園抑制や、デザインを工夫した標識、案内図を各所に設置することにより、分かりやすく、歩いて楽しい歩行者ルートの確保に努めます。
- ・ シャトルバス等の新たな公共交通機関の導入を図ります。

イ 駐車場の整備

- ・ 駐車場の整備は必要最低限に止めます。
- ・ 普通車用駐車場は、ＪＲ社宅用地の一部、ＪＲ山陰連絡線西側公園予定地等を候補地として検討を進めます。また、大型バス用駐車場は、既存の大型バス駐車場を活用します。
- ・ 来園者の周辺施設への回遊性をより一層高めるため、周辺における駐車場の確保についても検討を進めます。

ウ 駐輪場の整備

- ・ 自転車やバイクなどの駐輪用施設を大宮入口広場及び七条入口広場付近に設置します。

エ 玄関口の整備

- ・ 七条通に面している七条入口広場は、公園の主要な入口となるものであり、シャトルバスの乗降場やタクシーの降車場を設けるとともに、公共交通機関を利用する来園者の入口として機能を強化します。
- ・ 大宮入口広場は、大宮通に面した主要な入口であり、京都駅から徒歩で来園される利用者を心からもてなす、レセプションエリアとします。

② 緑環境の向上

都心のオアシスとして、芝生広場、朱雀の庭、及びいのちの森を中心とする豊かな緑を保全しながら、本市が取り組む新たな施設整備においても、緑を積極的に導入し、良好な環境の向上に努めます。

また、民間事業者が施設を設置する際においても、梅小路公園が育んできた緑・水・生物・大気などの良質な環境を守り、新たな施設の設置により生じる環境負荷の一層の低減に努めるなど、京都市とともに使命感を共有して事業を進めることとし、京都市が行う地球温暖化防止に向けた活動に積極的に参加・協力を行うこととします。

③ 良好な景観の形成

「市街地型美観形成地区」に指定された当公園全体の再整備を進めるため、民間事業者の施設整備に当たっては、公園や周囲のまち並みと調和した良好な景観となるように指導します。

具体的には、朱雀の庭やいのちの森などの豊かな緑、並びに伸びやかな芝生広場の空間と建物を調和させ、圧迫感を感じさせないように、建物の構造、意匠、色彩、植栽等にも十分配慮し、公園空間全体の景観に配慮したデザインとなるよう指導します。

④ 防災機能の向上

当公園は、京都市地域防災計画上の広域避難場所として位置付けられていることから、公園区域の拡張や周辺施設との連携により、広域避難場所としての区域拡大を図ります。また、災害時には、芝生広場が避難活動や救援活動を行うオープンスペースとなることから、民間事業者が整備する施設については、災害時には公園全体の防災拠点として屋内施設を利用できるよう事業者と提携するなど、公園全体の防災機能強化を図ることとします。

⑤ 安全な動線の確保

公園内の利用者動線は、七条出入口、大宮北出入口及び大宮南出入口をメイン入口とし、既存の動線を基本として、機能上問題のない安全な動線の確保に努めます。

また、普通車動線及びシャトルバス・タクシーについても、七条通から入退場することとし、機能上問題のない安全な動線の確保に努めます。

⑥ 周辺施設との連携による地域の活性化

公園内の魅力あふれる施設と、周辺に立地する七条通商店街、中央卸売市場などの商業施設、また、東本願寺、西本願寺、東寺などの歴史文化資源等とのネットワークにより、観光客の周遊性を高め、地域の活性化を図ります。

(3) 今後の予定

野外ステージ：平成22年3月 完成予定

水族館：平成23年度 開業予定

鉄道博物館：平成26年度～27年度頃 開業予定

(参 考)

1 梅小路公園の概要

京都市が平安建都1200年記念事業として整備した都市公園です。都心部に位置しながら豊かな緑を満喫できる憩いの空間として、市民に広く親しまれています。災害時の広域避難場所としての機能も併せ持ちます。

○ 所在地 京都市下京区観喜寺町 他 (JR京都駅から西へ徒歩約15分)

○ 面積 117,133㎡

○ 開設年月日 平成7年4月29日

○ 主要施設等 いのちの森(約10,000㎡), 芝生広場(約25,000㎡), 朱雀の庭, 緑の館, ふれあい広場, チンチン電車, 河原遊び場, 七条入口広場, 駐車場

○ 管理運営 財団法人京都市都市緑化協会

2 京都水族館(仮称)整備構想の経過

平成20年7月14日にオリックス不動産株式会社から「京都水族館(仮称)整備構想」の提案を受け, 同年7月16日の市長記者会見において, 提案を受けたこと及び提案内容を公表しました。

その後, 学識経験者等による第三者委員会「京都水族館(仮称)整備構想検討委員会」を設置して, 公園施設の設置許可の妥当性について諮問を行い, 同年12月24日に同委員会から一定の条件を付したうえで「設置許可は妥当」との答申を受領し, 現在, 事業者との協議を進めています。

なお, 事業者が事業計画を検討するにあたり, 建設予定地(京神倉庫跡地等)の状況を把握するため, 平成21年3月下旬から5月にかけて, 測量や埋蔵文化財試掘調査等が行われました。

3 (仮称)京都鉄道博物館の経過

梅小路蒸気機関車館(京都市)と交通科学博物館(大阪市)の両博物館を運営している, 西日本旅客鉄道株式会社から, 今後, 博物館活動の更なる活性化のために, 梅小路公園内(梅小路蒸気機関車館西側隣接地)に「(仮称)京都鉄道博物館」を設置したいとの提案が平成21年2月23日にあり, 同日, 公表しました。

2009年(平成21年)6月発行

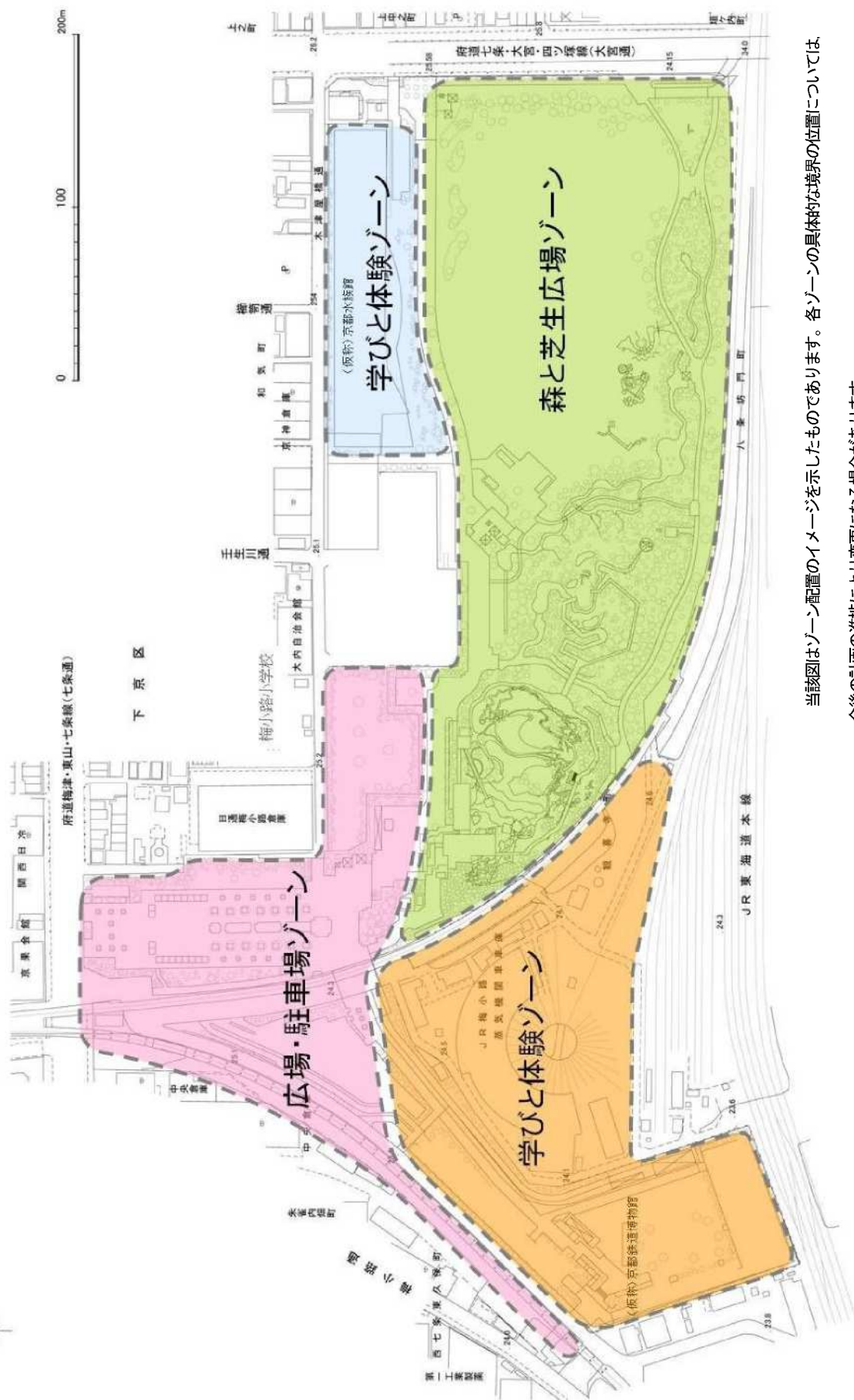
京都市印刷物 第214239号

発行 京都市建設局水と緑環境部緑政課 所在地 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

電話 075-222-3589 FAX 075-212-8704

ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/soshiki/10-4-1-0-0.htm> 電子メール ryokusei@city.kyoto.jp

梅小路公園再整備ゾーニング図(案)



当該図はゾーン配置のイメージを示したものであります。各ゾーンの具体的な境界の位置については、今後の計画の進捗により変更になる場合があります。

広場・駐車場ゾーンイメージ図



※参考イメージです。今後の協議により変更になる場合があります。

森と芝生広場ゾーンイメージ図



※参考イメージです。今後の協議により変更になる場合があります。

(仮称)京都水族館・展示内容のご案内

水族館・水紀行

水と共に、つながる、いのち。



山紫水明のまち、京都に水族館が誕生。

京都は水の豊かな都である。市内には鴨川・桂川・宇治川が流れ、四季折々の風情を彩る。水は悠久の歴史が育んだ文化・芸術、そして食文化といった独自の暮らしを今日まで支えている。京都ほど水が人々の生活に潤いをもたらしている都市はほかにはない。

京都・梅小路公園に水族館が誕生する。
水文化を育む環境宣言の都市、京都に相応しい、
「環境教育の場」と「文化交流の場」を担う、
新たな賑わいの拠点となるだろう。

あなたに伝えたいのは…

水と共に、つながる、いのち。

さあ、水を通じて多様な生物が共存・共栄している地球を巡る旅へ出掛けよう。

水を旅する水族館、水紀行へ出発。



水と共に、つながる、いのち。



日常から心を解き放つ、圧倒的な水の世界。

水槽の上部から差し込む光に向かって海面へ、白波に向かって水槽を見ながら進んで行く。来館者は海の中で海面へ飛び跳ねる魚たちと自分を重ねたり、クラゲのように漂いながら自分なりのイメージを膨らませながらスロープを登り海に同化してゆく。

水紀行・第一章 【ウェルカムゾーン】 あなたを水の世界に誘う。

来館者が最初に目の当たりにするのは外洋の海。その迫力は誰もが息を呑み、日常を忘れさせる体験が、あなたを水の世界に誘ってくれる。



水際に海獣たちの楽園がひろがる。

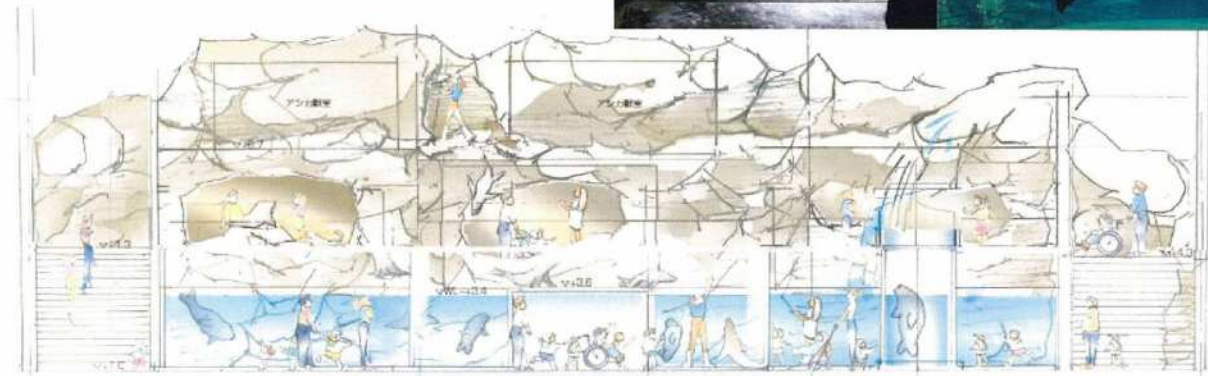
水紀行・第二章

【海獣ゾーン】

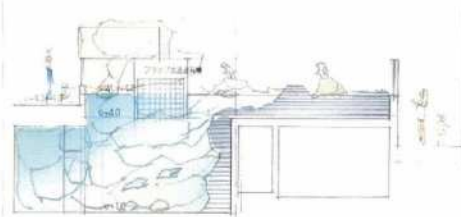
波打ち際に輝く、生命の営み。

来館者は水中から、爽やかな風と太陽を感じる水際に遭遇します。そこは海獣達の楽園。岩場で暮らす彼らのしなやかな姿に、あなたは目を奪われることでしょう。

岩場が再現された陸上はアザラシやオットセイが断崖を登り、岩場から飛び込み、渾の水に喉を潤す姿を岩場に設けられたトンネルから間近に見ることが出来る。ただ寝ているだけのアザラシもここではその寝息も体温も手の届きそうな距離で感じる。海獣類が本来自然界で行っている行動を誘発する展示を行う。



来場者は体験ツアーとして展示室に入ることが出来ます。ペンギンの街をそぞろ歩きするように、ペンギンたちと散歩を楽しみ、彼らの愛に溢れる姿を垣間見ることでしょう。



水紀行・第三章

【ペンギンゾーン】

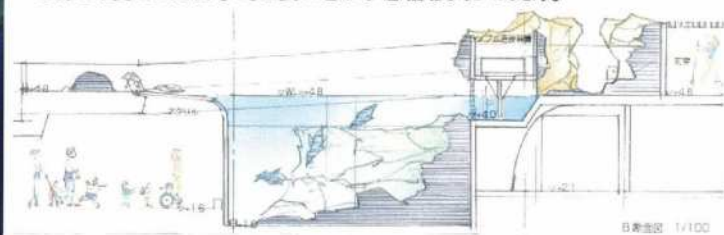
ようこそ異邦人の住む街へ。

ペンギンの水中でのスマートでスピーディーな動きと陸上でのユーモラスな姿、そして子育てに励む親子ペンギンを通して命の繋がりを表現。



集団の中に個性が躍動する。

温帯地域に生息するペンギンの入り江を切り取ったような展示。海の中での捕食の様子から波に乗って丘にあがる姿、陸の上での子育てや巣作りの様子などをスロープを回りながら観察。ペンギンの群れが助け合いながら生命を育む、愛らしくも哲学的な姿に思わず感情移入してしまう。



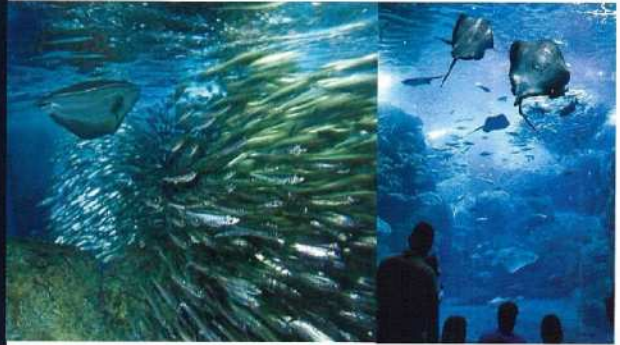
日産造園 1/100

躍動する、生命の煌めき。

生命の躍動。大型水槽の中で躍動する魚たちに生命のダイナミズムを感じる。鯨の群舞とエイの優雅な泳ぎのハーモニーにしばし時を忘れる。

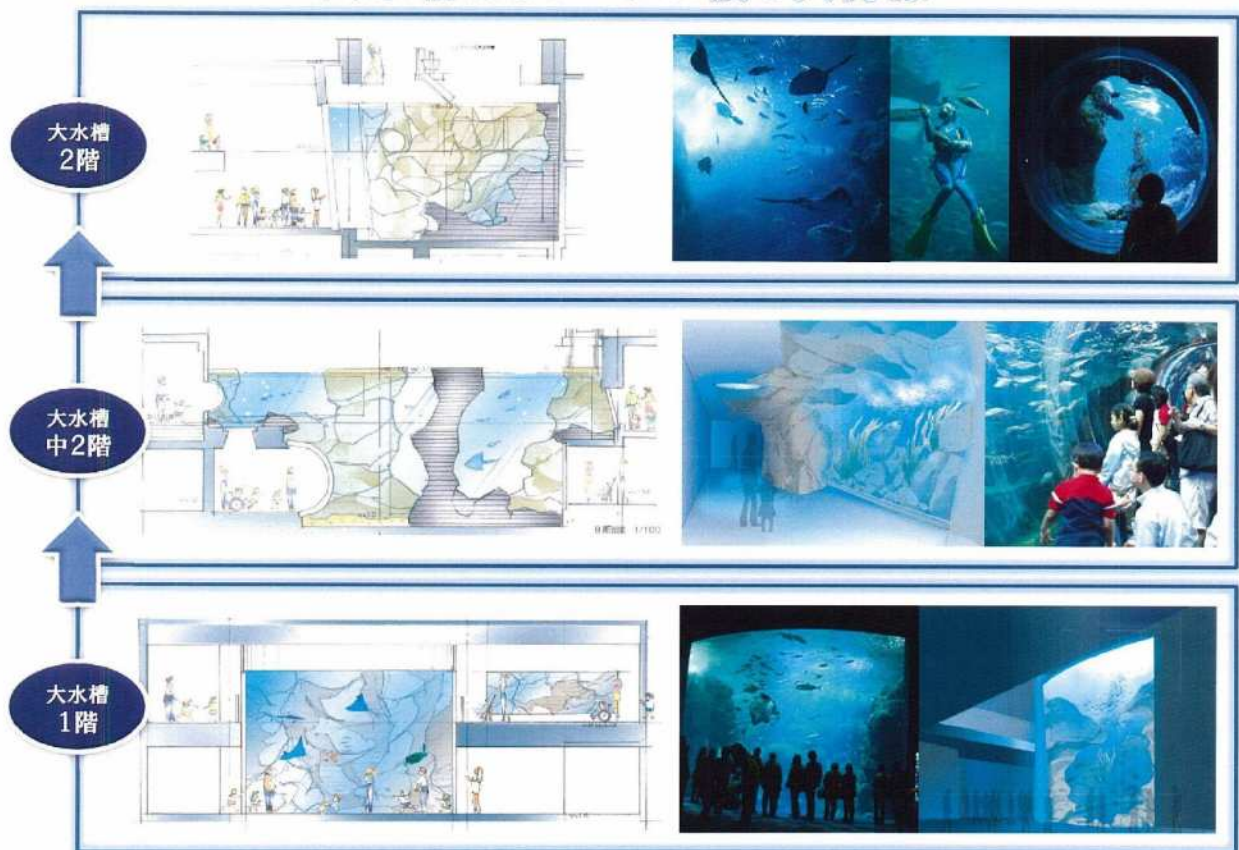


鯨の即興舞踊があなたを魅了する。



沿岸域の生育環境を再現。岩場の前に広がる大海原では捕食者と被捕食者と自然界で日常的に繰り広げられるチェイス。逃げ惑うイワシの群れを横目に悠然と泳ぐ海亀。海の底から海面の水域で様々な魚たちが棲み分けている。岩場の棚に、洞穴に来館者は色々な所から魚やエビやタコを見つけながら自分が捕食者となって探して行く。海の中の命の厳しさを体験。

大水槽は3フロアに渡る大海原





京都の海

4つの体験展示エリアとバックヤードを回りながら水族館の表と裏を体験。バックヤードでは飼育スタッフから繁殖や次の展示を待つ魚たちがどのように飼育されているのかを学びながら展示を再確認。



体験型地球環境学習プログラム



クラゲ



タイドプール



珊瑚礁



珊瑚礁

オリックス不動産は沖縄のサンゴを守っていきます。

サンゴ付域に立ち入り、次の世代へ美しい海を残したいと考えました。



クラゲ

コーラル水槽では、珊瑚礁の魚たちやオリックスの環境プロジェクトの取り組み、アマモなど自然本来の水浄化作用を取り込み自然保護を体験。オニヒトデや人間が自然を壊す事により繁殖する生物も取って展示し、自然再生VS自然破壊のサイクルを学習。

クラゲの神秘的な姿を見ながらちょっと一休み。のんびりしているクラゲたちも実は捕食者の一面もあることを幻想的な空間の中で体験。また、エチゼンクラゲを展示し、海洋環境問題を提起する。



色彩の楽園、地球の芸術作品。

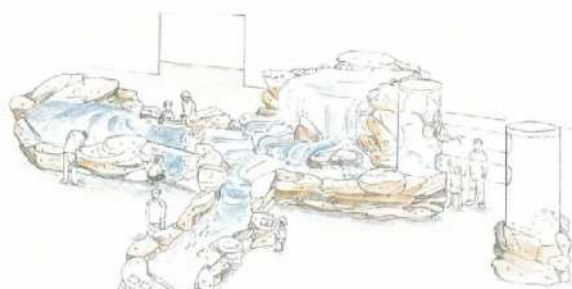


神秘の海で精神を解き放つ体験。



対馬海流と日本海固有水、若狭湾流がぶつかり合い、南北に分流し、多種多様な生態系を作り出す丹後半島の魚たちを展示、温暖化の影響で本来は丹後半島沖に生育しない死滅回遊魚など地球温暖化問題を映像と水槽を組み合わせて提起してゆく。

海の無い京都市だからこそ子供たちに磯遊びを体験し、箱眼鏡やのぞき窓を使って観察したり、磯の生物達を探し、触れることによって海を体感。



今までの水族館事業で数多く培った体験ワークショップや水族館に泊まって夜の魚の生態を探るナイトツアー、そして地域コミュニティを巡る出張イベントなど、水族館ならではのプログラムで、年間を通じて何度も足を運びたい文化施設を目指します。

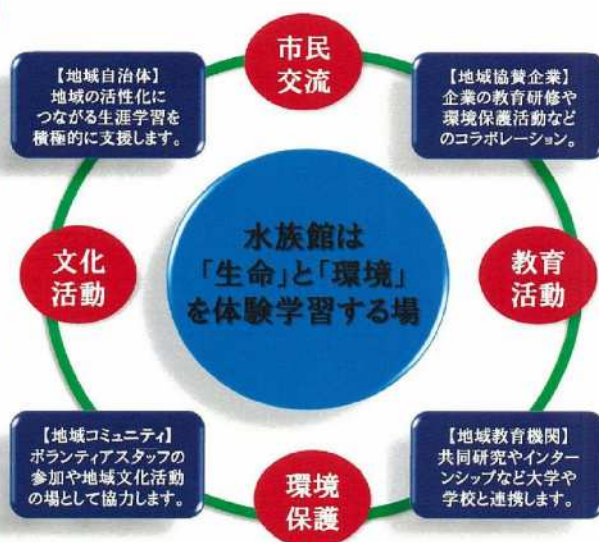


水紀行・第六章

【交流プラザ】

「生命」と「環境」を体験学習。

交流プラザは地域に開かれた文化交流拠点として、年間を通じて様々なプログラムを開催する空間です。地域の人々と共に知恵を出し合い、賑わいのある交流を発展させていきます。



交流プラザでは幅広いニーズに応える体験学習プログラムを開発し、効果的に運営。

種類	内容	対象
いつでも ワークショップ BOX体験キットで 気軽に参加できる！	ワークショップエリアにはBOX体験キットがずらりと並んでいます。BOXの中身はモノ作りの材料や、ゲームなど様々な体験が詰まっています。自分の興味や時間の都合で気軽に参加できるセルフ型プログラムです。	未就学～小学生向け 【初心者体験プログラム】 ※自由参加
季節・文化の ワークショップ 館内を巡りながら 学ぶ体験ラリー！	年間を通じて季節と文化をテーマにした、全館を巡る参加体験プログラム。ラリーシートを手に、水族館各所に設けられた展示水槽と連動した体験学習ブースを巡りながら、テーマについて深い理解を促します。	家族連れ、カップル向け 【リビート対策プログラム】 ※自由参加
年間テーマ ワークショップ 年間を通じて テーマを深堀する！	国際年などの重要テーマを取り上げ、年間でひとつのテーマを深堀するワークショップ。こどもシンポジウムやお泊りナイトツアーなど、参加者同士の交流も図りながら、年度末には研究発表会を行います。	会員・団体向け 【対象別プログラム】 ※事前申込
水族館出張 ワークショップ あなたの街に 水族館が来る！	地域とより多くの交流を図るため、出張体験プログラムも用意します。水族館から遠い施設や学校、お祭りやイベントなど、あなたの所へ水族館が移動します。	地域コミュニティ向け 【地域交流プログラム】 ※不定期開催



イルカの不思議な力をあなたに。



太古の時代に陸と海に分かれた人間の親戚イルカ。胸びれや尾びれの中には我々と同じ5本の指があり、海の中で生き残る為に身に付けた彼らの持つ超人的な機能を行動展示を通して学習。イルカと触れ合ったり、間近で見ることで、イルカへの理解を深める。そして、ここでは繁殖にも力を入れ、イルカと人間との関係を見つめ直します。



水紀行・第七章
【イルカラグーン】
人とイルカがつながる絆。

好奇心溢れるイルカ本来の生態を観察できるイルカの行動展示、ゲストがイルカとふれあう体験学習プログラム、そしてダイナミックなジャンプを披露するパフォーマンスなどで構成された魅力溢れるイルカラグーンです。

イルカと人間の共生を目指して。





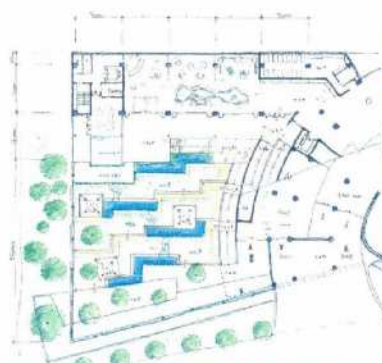
水紀行・第八章
【山紫水明プラザ】
京都の豊かな自然を守る。

京都は水の豊かな都として、さまざまな文化を育んできました。市内の川や地下水の水源が友禅染、湯葉、豆腐、伏見の酒、茶の湯などの様々な京都独自の文化を今日まで支えています。



千二百年の古都・京都の繁栄を支えているのは水である。

鴨川などの自然を再現した淡水魚の展示を通して京都の自然を学習。様々な体験学習プログラムや映像等を駆使して京都の自然の大切さを伝える。バックヤードについては通常動線の中に組み込み、公開型のバックヤードとして、魚の繁殖や次の展示を待っている魚たちの姿を見せてゆく。



水紀行・第九章
【せせらぎプラザ】
山紫水明のまちを支える憩いと安らぎ。

水族館の出口に向かう2階から1階への動線は欄田式のせせらぎが流れ、梅小路公園と景観が繋がっているユニークな環境空間が広がります。



梅小路公園とつながる、せせらぎの庭園空間。



京都市内には鴨川・桂川・宇治川が流れ、その豊かな水源は、魚貝類や水生植物の宝庫であり、夏には蓮の花が咲き乱れるという自然の恵みに人々は農業、漁業などを生業としました。その京都の豊かな自然を再現し、お弁当を広げられるスペースをもうけるなど安らぎと憩いの場所を提供。せせらぎの中の京都に棲む魚たちやニホンザリガニなどや睡蓮、葦など京都の水辺の特性を表現。

「緑・水・光・風」がモチーフ「環境共生型水族館」を目指します。

＜熱エネルギーの有効利用＞

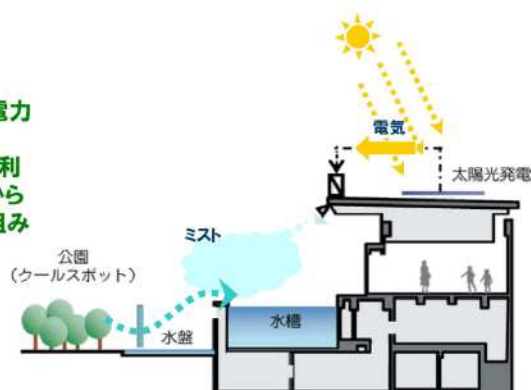
＜環境に優しい熱源システム＞

- ・熱源は高効率、コンパクトな機器で構成します。
- ・京都水族館計画では、深夜電力の有効利用として、「水蓄熱」を行います。水蓄熱とは、深夜に水を作り、その水を用いて日中の空調や水槽の水温管理等に利用することです。
- また、深夜電力を用いてイルカプールの温度を夜間に調整すること（「水蓄熱」）で、日中に温度調整するよりも環境に優しい水温管理が可能になります。
- ・夜間の蓄熱を利用することにより、日中の空調や水温管理の負担が減り、水族館全体の熱源低減を行っております。また、超高性能の水処理システムを用い、海水を大事に使うことで、海水を温めたり、冷やしたりするためのエネルギーを削減します。

＜太陽光・風の有効利用＞

- ・太陽光発電システムを採用します。太陽光で発電された電力により、ミストを作り夏の暑さ対策を実施します。

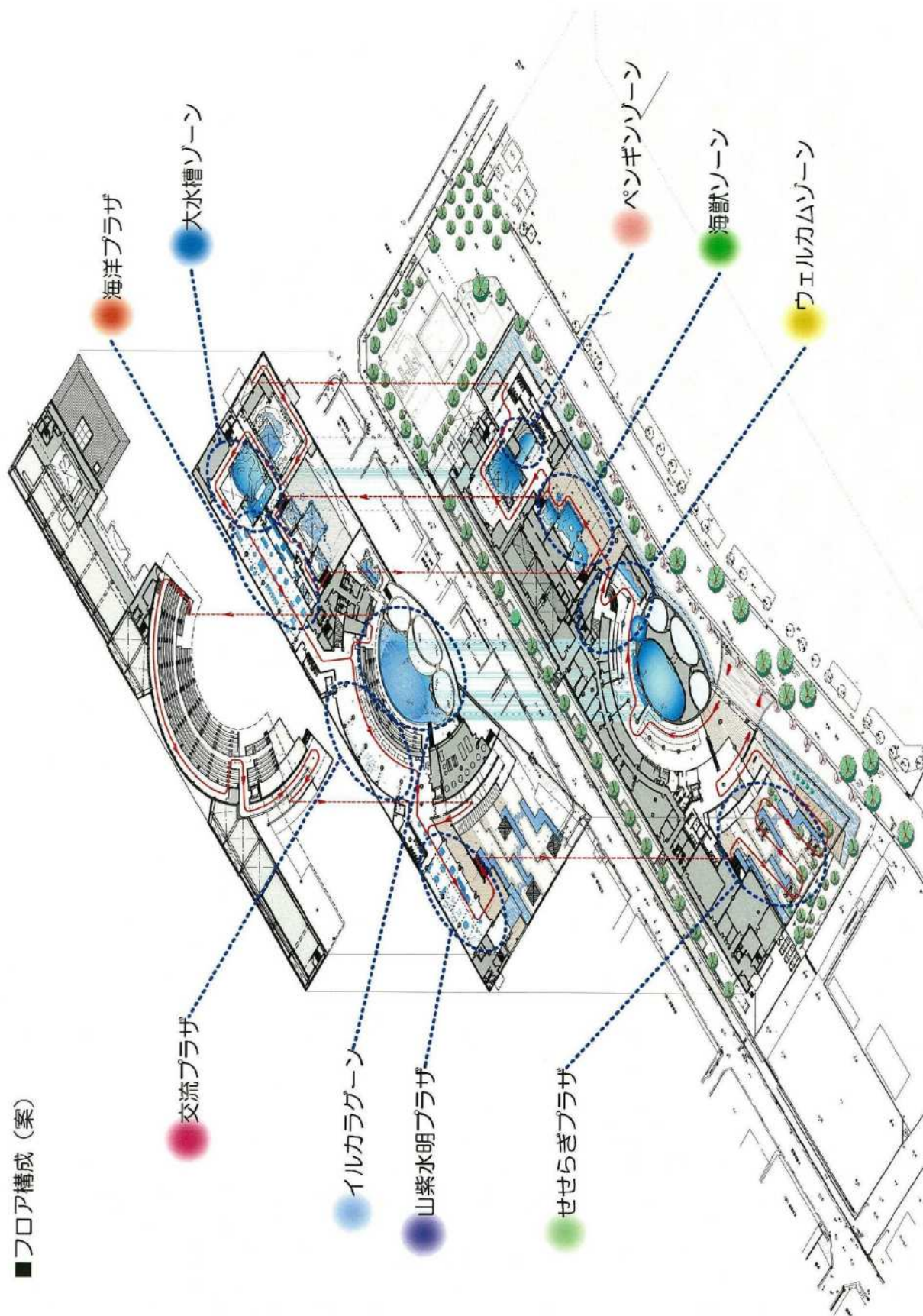
換気については、来館者数に応じた風量調節、地中熱を利用した換気に加え、通気性の良い建物にし、梅小路公園からの自然の風を取り込む等、様々な換気方法を最適な形で組み合わせ消費電力を抑えます。



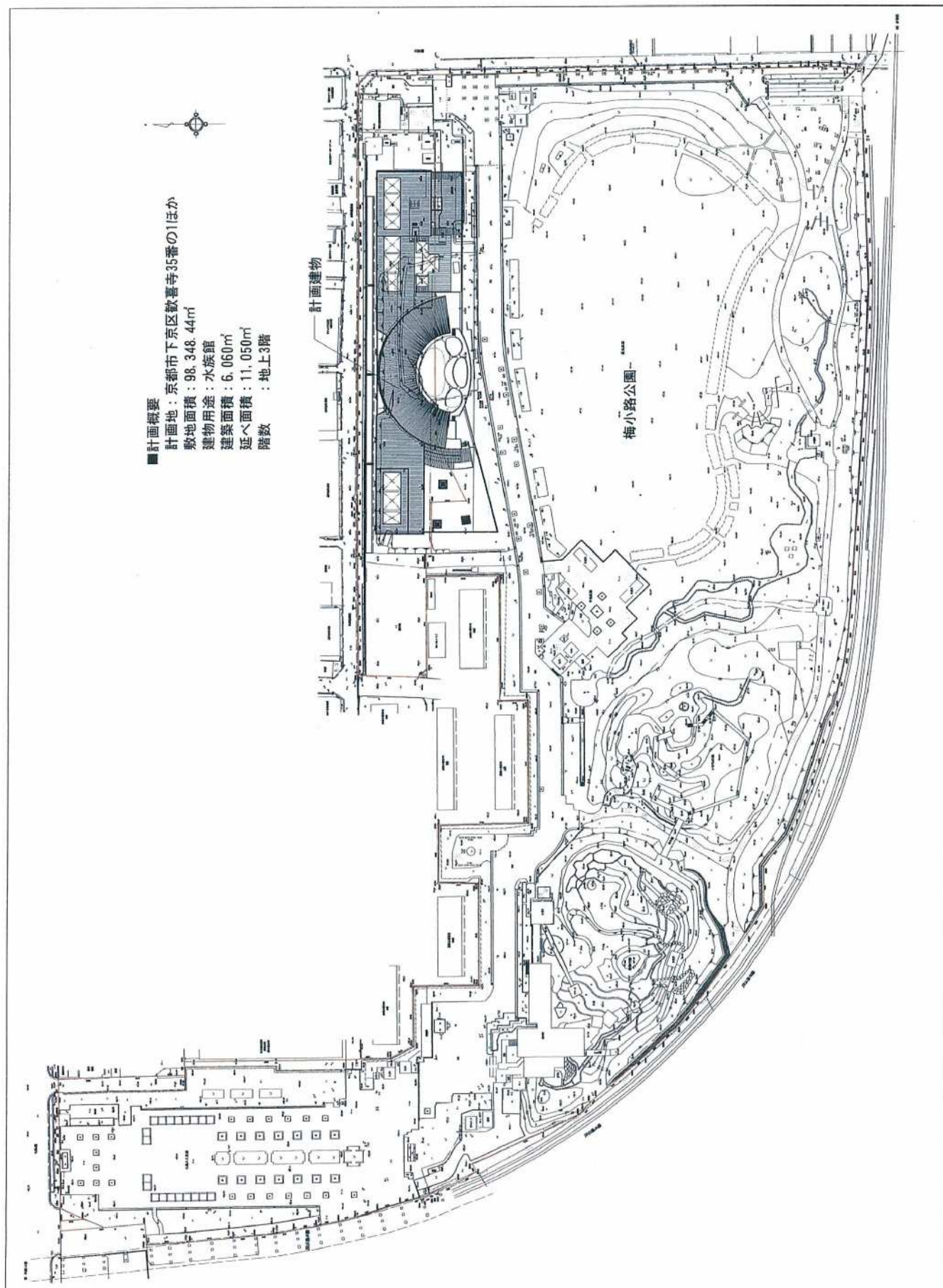
＜お客様へのCO2削減機能・効果の「見える化」＞



■フロア構成 (案)

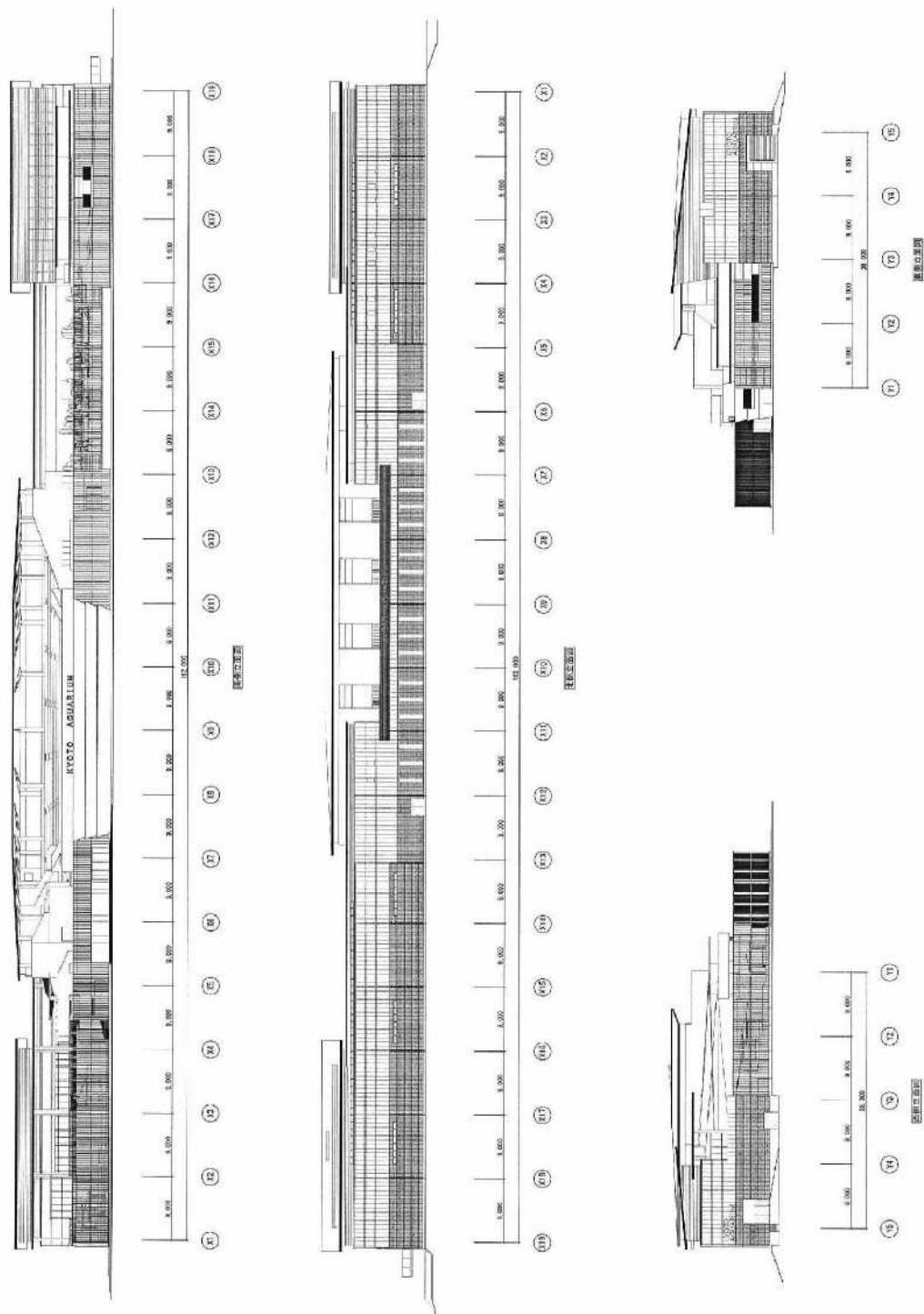


計画概要図



参考図

立面图



※今後の進捗および行政の指導により、計画内容が変更になる場合があります。

参考図

水族館のパス



※今後の進捗により、計画内容が変更になる場合があります。

2010年（平成22年）3月発行

京都市印刷物 第213165号

発行 京都市建設局水と緑環境部緑政課

所在地 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

電話 075-222-3589

FAX 075-212-8704

ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/soshiki/10-4-1-0-0.html>

電子メール ryokusei@city.kyoto.jp